中学校　国語

問題 三3

段落相互の関係の把握　通過率　54.9%

3　次の［　　］の文章は、ア～カのいずれかの段落の後ろに入ります。どの段落の後ろに入りますか。文章のつながりを考え、文章中のア～カの中から最も適切なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

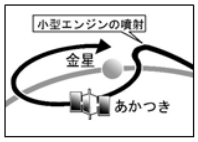
平成二十二年五月、日本の悲願を乗せて、金星探査機「あかつき」は打ち上げられました。その結果、「あかつき」もまた、金星への接近は果たしたものの、主エンジンの故障により、金星を回る軌道に入ることができませんでした。日本の悲願はまたしてもかなわなかったかに思われました。

【本文の抜粋】

イ　これまで、日本では、「さきがけ」「かぐや」「はやぶさ」といった探査機が、彗星や月、小惑星などの探査に成功してきました。しかし、惑星の探査に関しては、平成十年に、火星へ向けて「のぞみ」が打ち上げられましたが、火星への接近は果たしたものの、トラブルが重なって、軌道に入ることはできなかったのです。そのため、日本が惑星の研究をする際に、必要なデータは海外のものを利用せざるを得ない状況が続きました。日本にとって独自の惑星探査を実現させることは、惑星探査の分野で世界と（　A　）ことになり、悲願ともいえました。

ウ　しかし、「あかつき」に関わる人々は、あきらめませんでした。時間をかけて、何度も「あかつき」を軌道に入れるための方法と計算を繰り返しました。そして、「あかつき」が金星に近づくタイミングに合わせて、四つの小型エンジンを進行方向とは逆の方向に二十分間噴射して速度を落とし、金星の重力を利用して軌道に入るという計画を立てました。

エ　平成二十七年、二度目の挑戦が行われました。最初の失敗から五年の間に、「あかつき」は何度も太陽に接近したため、その熱によって機体は傷んでいたうえ、主エンジンは壊れたままでした。また、燃料が不足しており、練習もやり直しもできない崖っぷちの状況でした。しかし、そのような状況の下、「あかつき」は、奇跡ともいえる成功を収めたのです。いくつもの困難を乗り越え、日本初の惑星探査を実現させたからこそ、「あかつき」は、日本国内のみならず世界中から大きな注目を集めることになったのでした。



年だけに着目するだけでは不十分

「悲願ともいえました。」という内容と「しかし」に続く内容がつながっていないことに着目する必要がある。

解答類型		割合(%)
○	イ	54.9
×	ウ	29.1
×	エ	6.5
×	ア	4.6
×	オ	2.2
×	カ	1.0
×	上記以外の解答	0.3
―	無解答	1.4

誤答を見ると，ウの段落の後ろに入ると解答している生徒が29.1%いる。これらの生徒は，イの段落の「平成十年」，抜き出されている段落の「平成二十二年」，エの段落の「平成二十七年」のみに着目し，どこに入るかを判断したと考えられる。

正答するには，イの段落の最後が，「悲願ともいえました。」で終わっており，ウの段落の始めが，「しかし，『あかつき』に関わる人々は，あきらめませんでした。」となっているところを読み，内容面から「しかし」以降の文とのつながりの不自然さに気付くことが必要である。

内容の系統

第1・2学年　読むことイ
時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

第3・4学年　読むことイ
目的に応じて，中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え，文章を読むこと。

第5・6学年　読むことウ
目的に応じて，文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり，事実と感想，意見などとの関係を押さえ，自分の考えを明確にしながら読んだりすること。

中学校
第1学年　読むことイ
文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見などとを読み分け，目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。

提案　**文章の内容を構造化して表すなど，分析的に読む学習を通して段落相互の関係を捉えさせましょう。**

○　説明的な文章を指導する際には，内容を捉えさせるだけでは不十分です。文章構成を参考にして自分でも説明的な文章を書く活動を，単元を通して設定した上で，各段落の内容を図や表を用いて整理し，文章全体を構造化して捉えるような分析的な読み方をさせましょう。特に順接や逆接の論理関係を図化して整理させることは大切です。